

平成 22 年 1 月 16 日

「やりとり講座 パートⅠ」受講生 各位

勁草学舎 井澤真智子

## 「やりとり講座 パートⅡ」のご案内

「やりとり講座 パートⅠ」にご参加くださりありがとうございました。効果はいかがだったでしょうか。

人間と他の動物との違いは、≪①二立歩行 ②手を使って道具を使ったり作ったりする ③言葉を使って考える≫ですが、現代では、②と③がだんだん怪しくなっているのではないかと思う時があります。いや、出来る人と出来ない人の差が激しくなっているだけなのかもしれません。

②も③も人間の知能の発達に関係することですから、②や③を使わなくても生きられる世の中になったからというのが大きいのでしょうか、こんなことでは、将来がどうなっていくのだろうと心配になってしまいます。

外山滋比古著「思考の整理学」に「グライダー」と題された章があります。一部を紹介します。

『人間には、グライダー能力と飛行機能力とがある。受動的に知識を得るのが前者、自分でものごとを発明、発見するのが後者である。両者はひとりの人の中同居している。グライダー能力を全く欠いては、基本的知識すら習得できない。何も知らないで、独力で飛ぼうとすれば、どんな事故になるかわからない。(中略) この本では、グライダー兼飛行機のような人間となるには、どういうことを心掛ければよいかを考えたい』

「やりとり」の目的は、お互いの相互作用の過程を意識化し、自分のものとすることです。そしてその結果として、相手を変革し、同時に自己自身をも変化させることになるのです。

ですからやりとりをしている間は、お互いの精神活動は触発され活発になっていますから、知能はアップすることになります。つまり飛行機能力が高まるということです。外山先生は「学校はグライダー人間の訓練所である。飛行機人間はつくらない」と言っておられますが、グライダー人間では真の自立にはなりませんので、子どもたちには、親や勁草学舎内でのスタッフとのやりとりを通して、飛行機能力を補っていかねばならないと考えます。

そこで「パートⅡ 実践編」では、あるテーマについてそれぞれが必死に自分自身とやりとりをし、自問自答して事実のまま表現する。他者はその言葉を受け取り、自分の感じ方や考え方と照らし合わせをしてそのまま反応する。そういう訓練が必要です。下記日程によります。是非ご参加ください。

### 記

○テーマ	① A「グライダー」	&	B「流れる星は生きている (1)」	1月30日 (土)
	② A「未知を読む」	&	B「流れる星は生きている (2)」	2月6日 (土)
	③ A「離乳語」	&	B「流れる星は生きている (3)」	2月13日 (土)
	④ A「母国語」	&	B「流れる星は生きている (4)」	2月20日 (土)
	⑤ A「世相と形容詞」	&	B「流れる星は生きている (5)」	2月27日 (土)
	⑥ A「年賀状」	&	B「流れる星は生きている (6)」	3月13日 (土)

≪今回のテーマは、外山滋比古著「思考の整理学」「ことばの四季」、藤原てい著「流れる星は生きている」から採用しています≫

○時 間 午後 6 : 00 ~ 8 : 30 ≪前半 1 時間で A の文章の抽象的意味を把握していただき、後半 1 時間半で、1918 年生まれの藤原氏の情動、特に憤りの感情が日常にどう影響しているかを読み取り、ご自身と照らし合わせをしてください≫

○参加費 全 6 回 18,900 円 ≪テーマ A は「見えないものが見える」方向への組み立てとしました≫

○会 場 勁草学舎 5 階多目的ルーム または 4F 談話室